

# うっしっしいー情報2020

7月市



豊岡農業改良普及センター

7月8日に行われましたセリ市全体の平均価格は、去勢が61万1千円、雌が71万9千円でした。

普及センター調べ（税込価格）  
（雄を除くため、JA公表数値とは異なります）

地域	去勢			雌			総計	
	頭数	DG	平均価格	頭数	DG	平均価格	頭数	平均価格
赤佐	9	0.962	594,244	11	0.826	622,100	20	609,565
丹波篠山	8	0.942	620,675	7	0.831	762,929	15	687,060
丹波	25	0.944	597,564	24	0.826	620,675	49	608,884
朝来	13	0.953	657,885	8	0.882	729,025	21	684,986
播磨	29	0.942	572,114	14	0.824	611,521	43	584,944
美方郡	46	0.971	616,861	34	0.866	937,038	80	752,936
豊岡	21	0.954	581,638	13	0.833	628,015	34	599,371
養父	29	0.983	655,031	15	0.821	679,580	44	663,400
摂津・神戸	16	1.022	634,425	12	0.864	689,058	28	657,839
県北C	8	0.913	565,813	10	0.772	650,100	18	612,639
市場全体	204	0.962	611,077	148	0.838	719,326	352	656,591

# 7月市種雄牛ランキング

順位	種雄牛	去勢			雌			総計	
		頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均価格
1	芳悠土井	38	1.010	655,687	22	0.873	902,750	60	746,277
2	照忠土井	19	0.944	586,126	20	0.865	773,960	39	682,451
3	丸宮土井	20	0.971	666,600	7	0.793	675,557	27	668,922
4	照和土井	15	0.959	585,640	16	0.883	742,913	31	666,813
	総計	204	0.962	611,077	148	0.838	719,326	352	656,591
5	芳山土井	17	0.973	571,159	14	0.823	715,629	31	636,403
6	丸春土井	30	0.956	599,133	32	0.830	667,391	62	634,363
7	丸池土井	33	0.949	610,067	19	0.818	625,900	52	615,852
8	宮菊城	8	0.946	531,850	2	0.853	669,900	10	559,460

価格は税込み (10頭以上の出荷があった種雄牛のみ記載)

## ランキング種雄牛の育種価

	種雄牛	枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	皮下脂肪厚	歩留	脂肪交雑
1	芳悠土井	A	A → B	B	B	B	A++
2	照忠土井	B	A++	A	A+	A+++	A+
3	丸宮土井	C	B	A	A++	A+	A+
4	照和土井	A++ → A+	A++	B → C	B	A	A+
5	芳山土井	A+	A++	A++	C	A+	A+
6	丸春土井	C	C	B	B	B	A+
7	丸池土井	C	A+ → A++	C	B → A	A+	A++
8	宮菊城	A	A+	A++	B	A+	A

北部農業技術センター提供 (育種価評価は令和02年1月現在)

# 子牛1頭あたりいくらで生産できていますか？

## ○はじめに

新型コロナウイルスの影響で、枝肉価格が下落し、長らく続いた高値相場が軟調となっています。前回の5月市では子牛価格が市場平均で前年比55.9%と半値近くにまで下落しました(表)。急激な子牛価格の下落に多くの繁殖和牛農家のみなさんはガッカリされているかと思います。しかし厳しい経営環境にある今だからこそ、ぜひ考えていただきたいことがあります。それは「**子牛生産にかかるコスト**」です。今回のコロナ禍を乗り越え、健全な経営を目指していただくために耳の痛い話かもしれませんが少しの間お付き合いください。

表	但馬家畜市場 前年同月比 (5月市)		
	R1.5月市 (円)	R2.5月市 (円)	前年比 (%)
去勢子牛	1,028,613	528,986	51.4
雌子牛	974,198	610,198	62.6
市場平均	1,006,137	562,246	<b>55.9</b>

※普及センター調べ

## ○子牛価格は自分で決められない！！

繁殖和牛農家は販売する子牛の価格を自分で決めることができません。もちろん買い手の肥育農家でさえも購入する子牛の価格を決めることができないのです。まさに子牛相場は「神の見えざる手」に委ねられています。この相場の下落は、繁殖和牛農家の責任でなく、肥育農家、食肉業界の責任でもありません。子牛相場は誰にもコントロールできない外部環境なのです。では外部環境が悪化する中で、繁殖和牛農家がコントロールすべきことは何でしょうか…。それは**子牛の生産コスト**です。

## ○子牛1頭あたりいくらで生産できていますか？

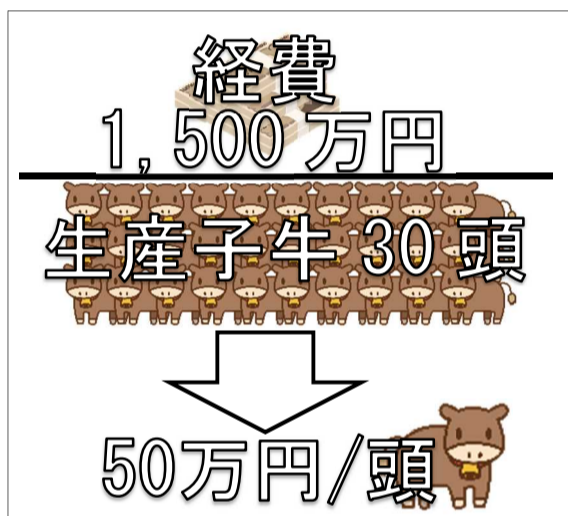


図1 年間30頭生産した場合

みなさんは、一体いくらで子牛を生産しているか計算したことがありますか？例えば、母牛40頭規模の農場が年間30頭の子牛を生産した場合、経費が1,500万円とすると、子牛1頭あたりの生産費は1,500万円÷30頭=50万円/頭となります(図1)。つまりこの経営では子牛相場50万円が損益分岐点となります。この金額を確認することで、我が家の経営が一体いくらまで赤字とならず下落相場に耐えうるかがわかります。

それでは、生産コストを削減するポイントはどこなのでしょう？一言でいうと「**減価償却資産の管理には経費をかけず手間をかける、出荷される商品には経費・手間ともにかける。**」ということになります。

ここでいう減価償却資産とは、繁殖和牛農家にとって母牛や機械・器具等になります。母牛の粗飼料は、自給飼料生産や放牧に取り組むことで飼料費の削減となり、適切な繁殖・飼養管理で、診療衛生費や授精料の削減につながります。機械・器具類も同様で、高い修繕費が発生する前に、こまめな点検整備を行うことが、コスト削減に

つながります。一方、商品は、当然子牛ということになります。子牛には、積極的な追加哺乳やスターターの給与を行い、与える粗飼料は乾物率、消化率ともに高く、子牛がしっかりと食い込めるものを給与しましょう。飼料費をかけても、必ずそれは子牛販売収入や将来の優良な繁殖母牛という形で回収することができます。

## ○出荷頭数増加で、コスト削減！？

経費削減だけが、子牛1頭あたりの生産費を下げる方法ではありません。子牛の生産性を向上することもコスト削減につながります。先程の40頭規模の農場が、1年1産を達成し、子牛40頭を生産した場合ではどうでしょうか。子牛生産頭数の増加により、飼料費や登録費用等が仮に子牛1頭あたり10万円増えたと考えると、農場全体の経費は1,600万円(1,500万円+10万円×10頭)となります。その経費を生産頭数で割ると1,600万円÷40頭=40万円/頭となり、1頭あたりの経費は10万円も削減されたこととなります(図2)。これにより損益分岐点が40万円となり、子牛相場が50万円を下回っても利益を出せる経営体質に改善されたといえるでしょう。

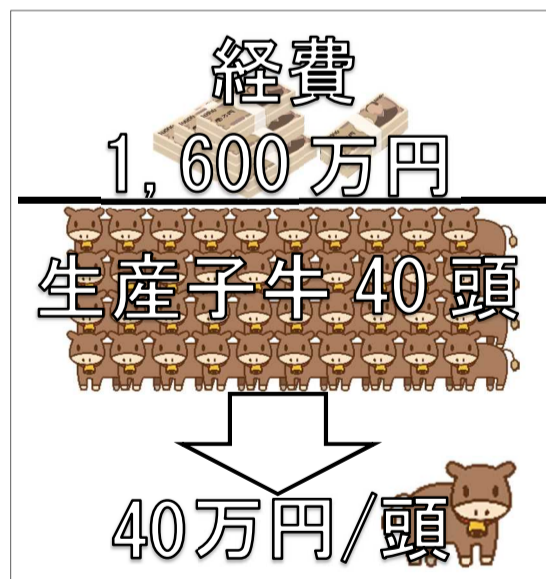


図2 1年1産が達成された農場の場合

## ○まとめ

今回は、子牛相場が下落する中、繁殖和牛農家のみなさんができること、すべきことを生産コストの面からお伝えしました。このコロナ禍というピンチを、外部環境が悪化しても利益を生み出せる経営体質に変えるチャンスと捉え、自らの経営を改善する努力を継続していただきたいと思います。

### Point

- 子牛相場は誰もコントロールできない外部環境！ 気にはなるが、気にしすぎない！
- 我が家の経営状況(子牛1頭あたりの生産コスト)を確認しましょう！
- 母牛管理のほとんどがコスト削減の対象、子牛管理はコストと手間を惜しまない！
- 子牛の生産頭数を増やして1頭あたりのコストを下げましょう！